

揺れの後の「二次災害」を防ぐ！

～通電火災から命と家を守る～

⚠ 揺れが収まっても油断は禁物！

平成30年の胆振東部地震による道内全域の停電（ブラックアウト）や、近年の能登半島地震など、大規模な地震の発生時には広域にわたる停電が発生します。

地震直後の火災の多くは、停電が復旧した際に、倒れたヒーターや傷ついた配線に再び電気が通ることによって発火する「**通電火災**」です。命が助かり、家屋の全壊を免れたにも関わらず、その後の火災で家財を失うこともあります。

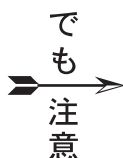


Q. 通電火災を防ぐためには？



A. ブレーカーを落とす

家を離れる際は、必ずブレーカーを落としてください。これだけで「通電火災」の大部分を防ぐことができます。



大切なのは命です

火災の対策は大切ですが、避難が遅れては元も子ありません。少しでも危険を感じたら迷わず避難を優先してください。

地域防災支援員の

＼ 今日からやろう！ ＼

防災力UP

No.15



むらやま りゅういち
村山 隆一

1964年3月生まれ、白糠町出身。1982年5月、釧路西部消防組合消防署に消防士として奉職。2022年4月、釧路市西消防署白糠支署長に就任。心理相談員や産業カウンセラーなどの資格を所有。好きな食べ物はカレーライス

⚡ 感震ブレーカー設置の検討を！

強い揺れを感知すると自動で電気を遮断する「感震ブレーカー」の設置は、不在時でも火災を防ぐ「財産を守る投資」になります。



コンセントタイプ

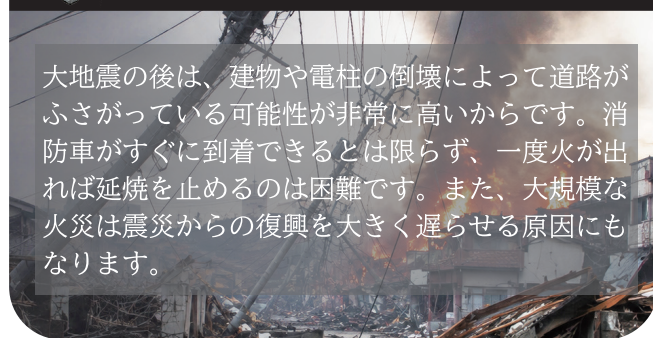


分電盤タイプ



なぜ、震災時に火災を出さないことが何より重要な？

大地震の後は、建物や電柱の倒壊によって道路がふさがっている可能性が非常に高いからです。消防車がすぐに到着できるとは限らず、一度火が出れば延焼を止めるのは困難です。また、大規模な火災は震災からの復興を大きく遅らせる原因にもなります。



防災マップWeb版
<https://www.town.shiranuka.lg.jp/kurashi/bousai>



津波避難アンケート
<https://logoform.jp/form/imyj/1541490>



★避難経路選びに迷った場合は、地域防災支援員（内線222）までお問い合わせください。



いつもの道が使えないかもしれません どう動きますか？

津波警報が出た際は、一刻も早く『徒歩』で津波避難場所（高台やタワー）へ逃げるのが原則です。火災や倒壊でいつもの道が通行できなくなるかもしれないので常に複数の避難ルートを考えておく必要があります。防災マップWeb版（左記）を活用して自宅から避難場所までの「別ルート」を今すぐ確認しましょう。

